

日米の賃金プロフィールに関する分析

—経験年数、勤続年数、転職行動による賃金増加—

一橋大学大学院経済学研究科博士後期課程

日本学術振興会特別研究員 DC1

荒木 祥太

要旨

本研究では日米のパネルデータを用いて、日米の男性についての賃金プロフィールについて労働市場経験年数、勤続年数、転職によるマッチングの質の変化がどれだけ賃金率の変化に寄与するかを推定した。本論文では、対数賃金率を被説明変数に、学卒後の潜在労働市場経験年数と勤続年数を説明変数とした賃金方程式を推定することで、それぞれの説明変数が対数賃金率に与える因果関係の大きさを推定した。具体的には、The National Longitudinal Survey of Youth, 1997 Cohorts と慶応家計パネル調査に含まれる事業所の閉鎖、企業の倒産による外生的な転職を経験した労働者の賃金率を用いて、労働市場経験年数による効果を識別かつ推定し、同一企業勤続者の賃金成長率からそれを差し引くという方法で勤続年数の効果を識別した。また、転職者の賃金変化率から労働市場経験年数、勤続年数の効果を差し引くことで転職によるマッチングの質の変化によってどれだけ賃金が変わるかを推定した。

アメリカと比べ日本の方が労働市場経験年数の対数賃金率への寄与度が低いという結果を得た。勤続年数が1年延長することによる賃金率の変化率はアメリカでは高校中退者、高卒者が4%、二年生大卒者で3%、四年制大卒者で2%と高学歴者ほど低くなる。一方、日本では勤続年数の効果は中卒者が1%に対し、高卒者、大卒者で4%近くあるという傾向を確認した。また、アメリカと比べ日本のほうが相対的に勤続年数の寄与度が高いことが示された。最後にマッチングの質の変化の寄与についてであるが、アメリカについては、まず転職によって賃金の上昇が見込まれる。これに対して、日本については、負の効果がみられた。

分類表コード: D,J

JEL Classification: J31,J63

キーワード: 賃金、パネルデータ、非自発的転職